

## 令和3年度「全国学力・学習状況調査」に見る 生徒達の学習および生活の様子

深秋の候、皆様方にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は本校教育の推進に対し、御理解、御協力をいただき心より厚く御礼申し上げます。

さて、去る5月27日（木）に、本校3年生188名を対象に実施されました「全国学力・学習状況調査」の調査結果資料を、先日お子様に配布いたしました。

文部科学省は、今回の調査の結果は「子ども達一人ひとりに培うべき学力の中の特定の一部分」であるとしております。また、「家庭での予習・復習」・「読書習慣」・「朝食・睡眠時間」・「携帯電話・スマートフォンの利用時間」など質問紙調査の結果との関連も報告されております。

本校といたしましても、今後、この趣旨を踏まえて調査結果を分析し、課題の明確化と改善策を具体化させ、指導の工夫・改善はもとより、学習活動全般の一層の充実に努めてまいりますので、今後も本校教育活動の推進のため、保護者の皆様方にはご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

### 問題別調査結果の傾向

#### 国語科

領域	評価の観点	問題形式
『話すこと・聞くこと』は + 0. 6 ポイント	国語への関心・意欲・態度 + 7. 2 ポイント	選択式では + 1. 6 ポイント
『書くこと』は + 4. 8 ポイント	話す・聞く能力 + 0. 6 ポイント	短答式では + 4. 6 ポイント
『読むこと』は + 8. 2 ポイント	書く能力 + 4. 8 ポイント	記述式では + 7. 2 ポイント
『伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項』は + 1. 8 ポイント	読む能力 + 8. 2 ポイント	
	言語についての知識・理解・技能 + 1. 8 ポイント	



#### 国語科より

全体正答率は全国平均を上回り（+4.4 ポイント）でした。領域別、観点別、問題形式別に見ても全分類で全国平均を上回る結果でした。問題別では、特に『読むこと』の領域において、「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを条件に合わせて記述する」問題では、全国平均と比べ13ポイント、「登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する」問題では、9.2 ポイント、「場面の展開と登場人物の心情や行動に注意して内容を理解する」問題では、7.2 ポイント上回り、高い数値を示しました。『書くこと』の領域において、「言葉の使い方について書かれた意見文の構成の工夫について自分の意見を記述する」問題では、9.9 ポイント上回る結果でした。その他の問題でも、ほぼ全ての問題において全国平均を上回る結果が見られます。

しかし、『話すこと・聞くこと』の領域の「話し合いでの発言についての意図を捉える」問題では、全国平均を2.7 ポイント、『伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項』の領域の、「随時」の適切な意味を選択する問題で、2.1 ポイント下回りました。繰り返し行っている日々の授業での『読むこと』『書くこと』の積み重ねや、家庭学習での基礎基本の積み重ねが成果として表れています。一方で、『話すこと・聞くこと』の領域においてまだまだ課題があると思われます。また、多くの問題において無解答率は低いですが、記述式の問題では、正答率は高いものの無解答率が高くなる傾向にあり、今後の改善点として向上を図っていく必要があると考えます。

## 数学科

領域	評価の観点	問題形式
『数と式』は + 6. 8 ポイント	数学への関心・意欲・態度 該当の問題なし	選択式では + 8. 4 ポイント
『図形』は + 13. 7 ポイント	数学的な見方や考え方 + 8. 6 ポイント	短答式では + 6. 5 ポイント
『関数』は + 6. 3 ポイント	数学的な技能 + 1. 5 ポイント	記述式では + 8. 2 ポイント
『資料と活用』は + 4. 1 ポイント	数量や図形などについての知識・理解 + 8. 6 ポイント	

### 数学科より

評価の観点ごとに問題を見てみると、すべての観点において全国を上回っています。特に数学的な見方や考え方方が高くなっています。これは思考問題などを解くことのできる上位層が多く、すべての問題において全国を上回る生徒が一定数いるということです。一方、数学的な見方や考え方と比べ、数学的な技能の観点のポイントが低くなっています。技能が低くなっている要因は、低位の生徒が一定数おり、基礎的な計算問題を解くことのできない生徒が比較的多いということがわかります。詳しく見てみると、【問題番号1】整式の減法では全国と比べ-1. 7 ポイントとなっています。同問題における無回答率は0. 0 %となっており、符号ミスや計算ミスなど計算方法自体が理解できていない生徒が多いことがわかります。

全国的にみると、図形の領域は関数や資料の活用よりも正答率が低くなっています。しかし、本校においては数と式に次いで2番目に正答率が高くなっています。図形の領域の正答率の高さがうかがえます。【問題番号3】扇形の弧の長さを求める問題では、正答率が80%を超えていました。扇形を円の一部と捉え、中心角と弧の関係を見出だすことができるなど、図形から情報を読み取り、数学的に捉える力があるといえます。

### 生徒質問紙調査からみた生活面の傾向

※全国平均と5ポイント以上差のあったものを取り上げています

質問番号（9）難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか

	嵯峨中学校	全国	全国との差
当てはまる どちらかといえば、当てはまる	54. 5	65. 9	-11. 4

質問番号（18）学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

	嵯峨中学校	全国	全国との差
3時間以上 2時間以上、3時間より少ない	55. 7	41. 8	+13. 9

質問番号（19）土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

	嵯峨中学校	全国	全国との差
4時間以上 3時間以上、4時間より少ない	56. 0	26. 8	+29. 2

質問番号（24）今住んでいる地域の行事に参加していますか

	嵯峨中学校	全国	全国との差
ほぼ毎日 週1回以上	49. 7	43. 7	+6. 0

質問番号（27）あなたは学校で、コンピュータなどのＩＣＴ機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか

	嵯峨中学校	全国	全国との差
ほぼ毎日 週1回以上	81.4	34.8	+46.6

## 質問紙からみた本校生徒の傾向

本校では、学校教育目標を「嵯峨・嵐山・広沢地域の豊かな自然と文化の中で、社会人基礎力の育成を目指す」と定め、社会人基礎力を「前に踏み出す力」、「考え方」、「チームで働く力」と捉え、日々教育活動に励んでいます。また、生徒の学びと社会とのつながりを尊重し、社会人基礎力と対応させて以下3つの具体的な生徒像を掲げています。

【前に踏みだす力】 「何事にも挑戦し、最後までやり遂げる強い意志と身体をもつ生徒」

【考え方】 「自ら課題を発見し、自律的に解決することができる生徒」

【チームで働く力】 「多様な人々といっしょに、目標達成に向けて協力する生徒」

これらの生徒像を実現するために、さまざまな“しあげ”を日々の授業や学校行事などに組み込み、教育活動を行っています。特に、今年度はこれまでの教育実践に加え、1人1台の学習用コンピュータ（GIGA端末）と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、すべての生徒に対して、それぞれに適した学びを提供し、資質・能力を一層確実に育成できる環境を実現することに力を入れています。その結果、「あなたは学校で、コンピュータなどのＩＣＴ機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか」という問い合わせに対して、ほぼ毎日・週1回以上であると答えた生徒が、全国と比較して+46.6ポイントと全国平均をはるかに上回る結果となりました。

また、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（ともに学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」という問い合わせに対して、それぞれ全国平均2時間以上、4時間以上であると答えた生徒が、全国平均と比較して+13.9、+29.2ポイント上回る結果となりました。このことから、学校の授業時間以外でも日々学習する習慣を身につけ、時にはＩＣＴ機器を活用する力も用いながら自学自習に励んでいることが見受けられます。これらはほんの一部ですが、【考え方】の育成にも繋がっていると感じております。

「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問に対して、+6.0ポイント上回った結果となりました。元々地域との繋がりが強い学校ではありますが、継続して地域との繋がりを意識している事が分かります。前年度は、嵯峨中パレードがコロナ禍で校内での巡回となりましたが、この嵯峨中パレードをはじめとして、地域との関わりを深める活動が多いことから、地域に貢献できる生徒が多いことに繋がっている傾向があると思われます。

一方、「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」という問い合わせに対して、肯定的に答えた生徒が、全国平均と比較して-11.4ポイント下回る結果となつたことから、【前に踏みだす力】にはまだ成長の余地があると考えられます。そのため、本校の総合的な学習の時間では、ESD「持続可能な社会を実現させていくために何ができるか」を主題とし、生徒が未解決な社会問題を自分事として捉え、何ができるかを主体的に考え、実践できる機会としております。このような学習を通して挑戦した経験をもとに、さまざまな学習においても【前に踏みだす力】を発揮していってほしいと思っております。

今回の結果は、3年生対象の調査によるものですが、各ご家庭でのご指導にお役立ていただきますよう、よろしくお願ひいたします。